



ひなちゃん

鴻巣市



記者会見資料

資料 11

花かおり

緑あふれ

人輝くまち

こうのす

市制施行 70 周年記念 郷土芸能まつりを開催



【日 時】令和 7 年 2 月 23 日(祝・日) 13 時～16 時

【会 場】鴻巣市文化センター(大ホール)

【内 容】鴻巣市内各地において継承されてきた郷土芸能を一堂に会した「郷土芸能まつり」を
 クレアこうのす大ホールにて開催します。郷土芸能まつりは、5 年に 1 度開催しており、
 今回は 4 団体による勇壮な舞や優美な演技を披露します。

《郷土芸能紹介》

○原馬室の獅子舞(県指定 170 号 無形民俗文化財)(原馬室獅子舞棒術保存会)

天正2年(1574)に 2 人の田楽師によって伝えられたとされる。ささらと呼ばれる獅子舞で 悪疫退散、五穀豊穡を願って7月に祈祷ささら、8月に祭典ささらが行われている。祭典ささらには木刀、六尺棒、太刀を使用した 35 の演目からなる棒術が行われている。

○広田のささら(市指定 66 号 無形民俗文化財)(広田鷲栖神社龍頭舞保存会)

広田のささらは、別名「龍頭舞」といって頭に龍頭をかぶって舞う獅子舞である。毎年 10 月 15 日、鷲栖神社に五穀豊穡と悪魔除けを祈願して奉納されている。龍頭舞に先立ち子どもたちによる「花棒」と呼ばれる棒使いが奉納されるのが特徴である。歴史は古く、同神社に残る古文書によれば、寛永 16 年(1639)に始まったと伝えられている。

○登戸の獅子舞(市指定 84 号 無形民俗文化財)(登戸獅子舞保存会)

登戸の獅子舞は、江戸時代に原馬室の獅子舞から伝授されて始まったとされている。昭和 34 年を最後に途絶えてしまったが、平成 9 年の獅子頭修理を契機として、平成 17 年度に保存会が発足し、平成 18 年に復活した。現在は、4月に悪霊退散祈願の風祭り、10月の第2日曜日に五穀豊穡を感謝する宮戸神社例大祭等で披露されている。

○鴻巣の木遣り・纏振り・梯子乗り(市指定 41 号 無形民俗文化財)(鴻巣地区鳶職組合)

纏振り・梯子乗りなどいわゆる鳶職の仕事は、一般に江戸時代に江戸町奉行大岡忠相が町火消しの組織を作ったのが始めとされる。一方、木遣り歌はもともと労働歌として古くから唄われていたとされている。起源は明確ではないが、木遣り歌の歴史は他の芸能より古く、地域によってそれぞれ特徴があるとされる。